

◎教皇、聖地巡礼終えてバチカンへ

【クリスチャン・トゥデイ、2014年6月3日】

<http://www.christiantoday.co.jp/articles/13424/20140603/pope-holy-land-vatican.htm>

バチカン放送（日本語電子版）によると、3日間にわたる聖地巡礼の最終日の5月26日、教皇は早朝、岩のドームを訪問、次いでイスラム最高評議会の建物内で、イスラム教関係者と会見した。

教皇は、ユダヤ教・キリスト教・イスラム教において尊敬の対象とされるアブラハムがこの地で生き、旅したことを想起、神の呼びかけに常に従順であったアブラハムのように、神が計画される未来に向かって常にわたしたち自身を開いていかなければならないと述べた。

そして、「兄弟姉妹として互いに尊敬し、愛し合い、神の名において誰も暴力を行なうことがないように、平和と正義のために共に働きましょう」とイスラム教関係者に呼びかけた。

教皇は、続いて、ヘロデ大王時代のエルサレム神殿の遺構、「西の壁」とも呼ばれる「嘆きの壁」に移動した。教皇は自らの手で「主の祈り」をスペイン語で書いた紙を手にしてしたが、沈黙の祈りに続いて、この主の祈りを唱え、伝統に従って、祈りを記した紙を壁の隙間に差し込んだ。

この訪問には、教皇の大司教時代からの友人、ブエノスアイレスのユダヤ教指導者とアルゼンチンの諸宗教対話研究所の事務局長を務めるイスラム教指導者の2人が付き添っていた。

教皇は、大統領官邸にシモン・ペレス大統領を表敬訪問。大統領との個人会談に続き、庭園で平和を象徴するオリーブの植樹を行なった。

この後、官邸で、大統領と教皇の公式の挨拶交換が行われた。この中で教皇は、「エルサレムが真に自由の都市であるように」と述べ、全人類の遺産であるそのアイデンティティ、神聖さ、宗教と文化の普遍的価値が輝き渡ることを希望。巡礼者や住民が自由に聖なる場所を訪れ、宗教行事に参加できることを要望した。

そして、平和はすべての人の自由と尊厳を尊重することから生まれると教皇は述べ、平和の追求と尊重ある共存を妨げるすべてのもの、暴力やテロリズム、民族・宗教上の差別と断固として排除しなければならないと強調された。

教皇はベニヤミン・ネタニヤフ首相とも会見、ホロコースト記念館「ヤドバシェム」を訪問された。ペレス大統領、ネタニヤフ首相、エルサレムの首席ラビも参列。強制収容所で餓死したルーマニアの若いユダヤ人女性の手紙の朗読に教皇はじっと聞き入った。ホロコーストの生存者6人と会見した教皇は、一人ひとりの手を取り、言葉を交わされた。この中にはカトリックの家族の中で成長したポーランド人男性もいた。

教皇は、「最後の晩餐の高間」で現地の司教らとミサを行い、3日間にわたる聖地訪問を終えた教皇は、現地時間の夜8時過ぎ、テルアビブ空港を発ち、バチカンに戻った。

教皇は一夜明けた27日午前、ローマのサンタ・マリア・マッジョーレ教会を訪問、聖母画「サルス・ポプリ・ロマーニ」の祭壇に花を捧げ、聖地巡礼の無事終了を感謝し、祈りを捧げた。

☆関連するキーワード：アブラハム、宗教間対話

◎3宗教の共同礼拝施設建設へ＝融和と相互理解目指すーベルリン

【時事通信、2014年6月7日】

http://www.jiji.com/jc/c?g=int_30&k=2014060700051

ドイツのベルリンで、キリスト教とユダヤ教、イスラム教の共同礼拝施設を建設する計画が進んでいる。異教徒間の融和と相互理解を深め、平和を実現するのが狙いで、このような施設は世界でも初めてという。

建設を予定しているのは、ベルリンが成立したとされる13世紀当時、市の中心部にあった教会の跡地。施設内にキリスト教の教会、ユダヤ教のシナゴグ、イスラム教のモスクを設置。中央に各宗教の信徒が交流する大ホールを設ける。

計画に当たっては、3宗教の指導者が集まって検討を重ねた。イスラム指導者のカディル・サンチ氏は「3宗教だけでなく、全ての宗教の信徒に開かれた施設にしたい」と述べるとともに、宗教に関心がない人も利用してほしいと話している。

着工は2016年初めの予定で、完成まで2年かかる見通し。総事業費4350万ユーロ（約61億円）は全額寄付で賄う。

☆関連するキーワード：共同礼拝

現代世界における課題（1）

世俗主義と原理主義

Overview

- 近代化という文脈
- 世俗化と世俗主義
- 原理主義
- イスラーム復興運動の源流

近代化という文脈

- 「世俗化」は西洋社会の「近代化」の副産物。
- 非欧米諸国（特にイスラーム世界）では、近代化（**modernization**）と西欧化（**Westernization**）が意識的に区別されてきた。欧米以外の多くの国は、西欧化＝**植民地化**という歴史を持っている。
- 近代化や西欧化によって引き起こされる変化に対する抵抗原理として「原理主義」を位置づけることができる（広義）。

一神教内部の多様性の指標

ユダヤ教・キリスト教・イスラームそれぞれの内部に存在する多様性（多様な集団）は、世俗主義および原理主義からの距離によって計ることができる。



世俗化 (secularization)

- 宗教が社会に及ぼす影響力の低下。西洋のキリスト教社会がモデルとなっている。
- もともとこの言葉は、宗教改革の時代に、教会の財産（土地や建物など）を行政に譲渡することを指して用いられ始めた。そこから、土地などが教会の支配から解放されると同様に、社会や文化が教会権力から解放され、キリスト教の影響が次第に減退していく現象を広く世俗化と呼ぶようになった。
- 1980年代以降、世界的な「宗教復興現象」が起こることによって、世俗化論は根本的な見直しを迫られることになった。

世俗主義 (secularism)

- 世俗主義は**政教分離**とほぼ同義に用いられることが多い。
- 政教分離の前提
 - 私的領域と公的領域の分離
- 政教分離の多様性
 - 分離のあり方をめぐる論争

原理主義 (fundamentalism) —— 狭義の理解

- ファンダメンタリスト (原理主義者) という言葉は、もともとは1920年代に、米国のキリスト教保守派が進化論や近代的な文献批評学と対決するために用いた「自称」であった。その呼び名は、1910～1915年に刊行されたThe Fundamentalsという12巻の小冊子のタイトルに由来する。
- しかし、ホメイニーによるイラン革命 (1979年) 以降、警戒すべきイスラーム運動に対して原理主義という言葉が転用され、原理主義といえば、「イスラーム原理主義」を指すようになった。そこには前近代的なニュアンスが刷り込まれている。イスラーム世界では「イスラーム主義」「イスラーム復興主義」などの言葉が用いられる。



原理主義 (fundamentalism) —— 広義の理解

- 近代化・世俗化に抵抗しつつ、それを超越する文明論的な原理を掲げる思想的・政治的な運動。
- アジアの近代史においては、原理主義的運動はしばしばナショナリズムと結びついた。広義の理解を踏まえることによって、異なる時代や地域に通底する共通要素を洞察することが可能となる。
- 例：ガンディーの非暴力抵抗運動
- 「広い意味で理解すれば、原理主義は、急激な時代の流れに巻き込まれたときに自らを押しとどめようとする「慣性の力」であり、また同時に、様々な堆積物によって流れがせき止められようとしたときに、それを決壊させる力でもある。」 (小原・中田・手島『原理主義から世界の動きが見える』159頁)



イスラーム復興運動の源流

- ムスリム同胞団
- 西洋 (イギリス) からの独立とイスラーム文化の復興を目的として、ハサン・アル=バンナーにより1928年に設立。イスラーム的価値に基づく、幅広い「世直し運動」。非合法とされてきたが、実質的には最大野党。穏健派が主流であるが、1970年代以降、「イスラーム集団」「ジハード団」など急進派少数集団が分離。ハマスも、同胞団のパレスチナ支部として出発している。
- 2011年6月6日、同胞団による「自由公正党」が政党として承認。
- 2012年6月30日、同胞団出身のムルシ氏が大統領に就任。
- 2013年7月、軍事クーデターでムルシ氏が大統領を解任された後、同胞団が弾圧の対象となり、現在に至っている。

参考文献

- 松本健一『原理主義』風人社、1992年。
- 原理主義を特にナショナリズムとの関係で広義に解釈し、多様なテーマを包括している。日本近代史に関する分析も興味深い。原理主義を本格的に問うた先駆的書物である。
- 臼杵 陽『原理主義』岩波書店、1999年。
- 原理主義に関する国内外の先行研究を幅広く視野に入れながら、原理主義という用語の有効性を緻密に検証している。具体的な考察対象としては、ユダヤ教原理主義が中心となっている。
- 小川 忠『原理主義とは何か——アメリカ、中東から日本まで』講談社、2003年。
- 米国、エジプト、イラン、インド、インドネシア、日本を対象に原理主義的運動の事例を幅広く紹介し、その特質と変容を描いている。
- 小原克博・中田考・手島勲矢『原理主義から世界の動きが見える——キリスト教・イスラーム・ユダヤ教の真実と虚像』PHP研究所、2006年 (PHP新書)。
- 一神教の特質を問いつつ、原理主義をめぐる言説と現実を批判的に考察している。